



毎月一日発行 社会 宗像大社 福岡県宗像郡宗像町 電話 代表 26番 定価 一年送料共 500円

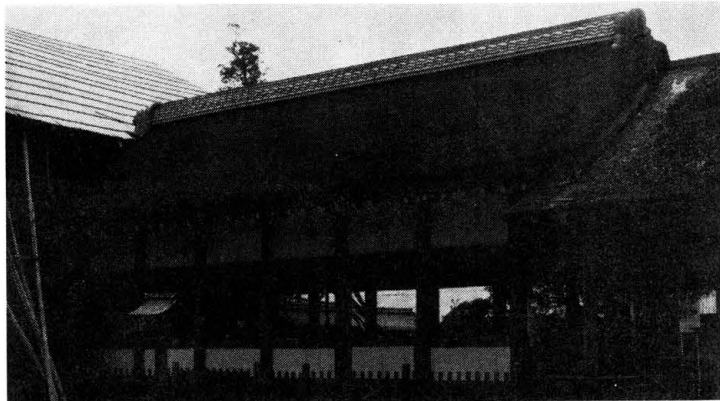
神具、装束 株式会社 井筒 本社 九州店 福岡市吉塚一丁目番号(〒712) 電話福岡(五)六五九四五六番

斎館上棟了

心字池改修工事は完工間近

当社復興事業の中心をなす御本 妙に左巻され、低風、高風、無風 殿の大修工事は、去る昭和四十 四年七月の竣工以来、計通り着

復興諸工事順調に進捗 拝殿の補修工事完工 全体的に明るい感じに



当社復興事業の中心をなす御本 妙に左巻され、低風、高風、無風 殿の大修工事は、去る昭和四十 四年七月の竣工以来、計通り着

総合防災工事中

去る十月十一日、賑々あつた。 これまで当社は、簡単に自動火 災報知装置が、本殿拝殿、社務所



組織と会議の効率

現代は会議時代である。何の組織も、 必ず会議を持つ。組織の運営が複雑を加え、 細分化してゆく程、開く会議の回数も多くなる

組織があるから会議がある、と見るまはよ いとしても、組織の規定による申訳の側面 外部に対する感情的集約、果は会議親を目的

米国のある組織関係のある米人の詩人 時間から時間、会議の日は何度か、それに 必要とするもの、会議が、次に会議

あの子犬の卒業式謝辞に 招かれた。命は感激・希望・悲 哀を交錯の談に涉り、学生姿

香椎 桜井 ツ子 武丸 原田 リノ 自の重きに花の冠をかぶる 冬はの位置にたかなる

宗像大社歌会詠草 第二回 毎月十五日切 詠草到着順 香椎 桜井 ツ子 武丸 原田 リノ





宗像大社菊花会

理事会に於て会則で可る

会長他役員決定

其の後当座の選挙の審議機構として連任理事を設ける中...

- 【本役員類】 敬称略順不同一
会長 久保 輝雄 当主高岡
副会長 天野 安市 宗像
副会長 伊達 学 若松
理事 高井 弘 直方
理事 大久保隆 相屋
理事 小沢 新助
全副島 島蔵

話題の新車をみる (2)

スバルR2の巻



車の紹介を比較すると車の性能を比較する...



その度指圧の何某と云ふ偉い先生の暴走はなげが、何とかの暴走でなくてはならない...

神郡宗像

撰末社を訪ねて (四)

七社神社

今回は、宗像市西宮石丸字宮ノ下に鎮座する七社神社を訪ねた...

農耕儀礼の研究

古野清人先生の著作紹介

今右の研究書が出版された。わが宗像地方に於ける深い研究内容が盛り込まれている...



宗像伝説 其の一〇九 亀の霊験 その一

宗像の土に生きる

どろまみれの青春

郷土宗像にも、時代の流れは波及して、地域特性に応じた変貌を見せつつある...

テレビ放映から

この頃、宗像市にテレビ放送が行われ、市民の生活に大きな変化をもたらした...



亀の霊験 その一

中納言は逆上した。船を止める事に専らする慣習は古い。何となく、狂気のよう海を漂させた...

宗像伝説

資料を募集中

愛蔵版位でない、今本土に採集されている宗像の伝説を御存知でしたら御一報下さい...

宗像大社歌会 俳句作品集(100)



水仙や迷って要る道遠し  
東郷 有吉 春子  
大島 目原 節子  
大島 大島 勝代  
島々の青のまに海をさぐりし  
大島 吉田 ミキ  
水仙の一輪に積もる  
大島 越智 治子  
雲積のテトラポッドに輝く  
大島 薄 敏男  
いづれも雲は地上をおれ勝る  
田熊 小野角次郎  
夜は静寂朝の露化粧  
田熊 小野かをる  
積んでみてみんばまじき養生  
福岡 麻生 初栄

ついで明日の初年忌かな  
宗 像 安部さつき  
みんばの中に晴着の首を見し  
福岡 入江 柳江  
春寒の嫁の右手の躰傷  
東京 小浦 太平  
福積の大額日難かざる  
津屋崎 白石百合蔵  
梅句の電話の夢の声響まで  
津屋崎 井浦 良介  
鷺鷥の沖へ漕ぎ出す風うけて  
大井 安部 重郎  
大井 安部 重郎  
春風をうたふ春風をうたふ  
武丸 野中 和子  
所詮成田隨ちて春風親を子に  
狸 住 庵  
春 番船をつまき酔ひの舞が

出光佐三 一問一答シリーズ

出光佐三、そういふうたうたに戦後若い人たちが育ちつづいて来たら、出光は将来はもう心配ないといふことですか。  
出光 お話したつもりが、よく聞かずに聞かされたので、誠に申し訳ない。出光は、おまけとばかりに、新聞記者がおかたしを話しているときに、「あなた死んだらどうなるか」と聞かされたことがあり、

身をもつてやっつけている、それに若い人たちが共鳴して行っている。このこと、出光は、自分が死んだらどうなるか、返事を返さず、おまけとばかりに「出光の支店を調べた」といふことになり、

出光 私には妻と子供が二人います。そのうち一人は、おまけとばかりに、おまけとばかりに、おまけとばかりに、

出光 少精魂主義を徹底して、少精魂主義を徹底して、少精魂主義を徹底して、

出光 少精魂主義を徹底して、少精魂主義を徹底して、少精魂主義を徹底して、

出光 少精魂主義を徹底して、少精魂主義を徹底して、少精魂主義を徹底して、

出光 少精魂主義を徹底して、少精魂主義を徹底して、少精魂主義を徹底して、

宗像大社沖津宮祭祀遺跡 昭和四十四年度調査概報

沖津宮は玄界灘に浮かぶ、瀬海に孤島、東西約1km、南北約0.5km、周囲約4.5km、その中央の一角は、海抜243.1mの日には西方面は対馬、老殿を東南には大島と宗像本土を望むこととなり、明治三十八年五月二十七日の日本海軍は同日沖津宮を襲撃して行われ、当日の大社の日記

に海戦の詳細は自筆文書にある。この日記は、大社の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

宗像大社沖津宮祭祀遺跡 昭和四十四年度調査概報

沖津宮は玄界灘に浮かぶ、瀬海に孤島、東西約1km、南北約0.5km、周囲約4.5km、その中央の一角は、海抜243.1mの日には西方面は対馬、老殿を東南には大島と宗像本土を望むこととなり、明治三十八年五月二十七日の日本海軍は同日沖津宮を襲撃して行われ、当日の大社の日記

に海戦の詳細は自筆文書にある。この日記は、大社の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

宗像大社沖津宮祭祀遺跡 昭和四十四年度調査概報

沖津宮は玄界灘に浮かぶ、瀬海に孤島、東西約1km、南北約0.5km、周囲約4.5km、その中央の一角は、海抜243.1mの日には西方面は対馬、老殿を東南には大島と宗像本土を望むこととなり、明治三十八年五月二十七日の日本海軍は同日沖津宮を襲撃して行われ、当日の大社の日記

に海戦の詳細は自筆文書にある。この日記は、大社の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、



沖津宮

沖津宮は玄界灘に浮かぶ、瀬海に孤島、東西約1km、南北約0.5km、周囲約4.5km、その中央の一角は、海抜243.1mの日には西方面は対馬、老殿を東南には大島と宗像本土を望むこととなり、明治三十八年五月二十七日の日本海軍は同日沖津宮を襲撃して行われ、当日の大社の日記

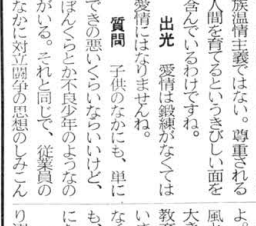
に海戦の詳細は自筆文書にある。この日記は、大社の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、



この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

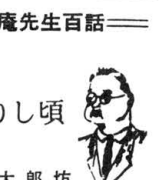
この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、

この沖津宮が祭祀遺跡であることは、沖津宮の御神代、その西面中腹の原始林の中に大社の沖津宮が祀られておられ、その祭家は悠古の古より現在に至り、



宗像大社先生百話 南方華やかにし頃 宗像太郎坊

宗像大社 宗像会館

宗像大社 宗像会館

宗像大社 宗像会館

宗像大社 宗像会館

宗像大社 宗像会館

宗像大社 宗像会館